アップル、50%割れ

エイスース、3位浮上

タブレット

【タブレット（多機能携帯端末）】出荷台数は約9割増と急成長が続いた。10型の「iPad（アイパッド）」に加え、7型の「iPad mini（アイパッドミニ）」を発売した米アップルが3年連続で首位だった。シェアは大きく減少し50%を割り込んだ。

対抗するのは基本ソフト（OS）に米グーグルの「アンドロイド」を採用する機種だ。5位圏外から台湾のエイスースが3位に急浮上した。グーグルと共同開発した「ネクサス7」は一時的にiPadを上回る週もあった。富士通とNECは法人向けが堅調だった。

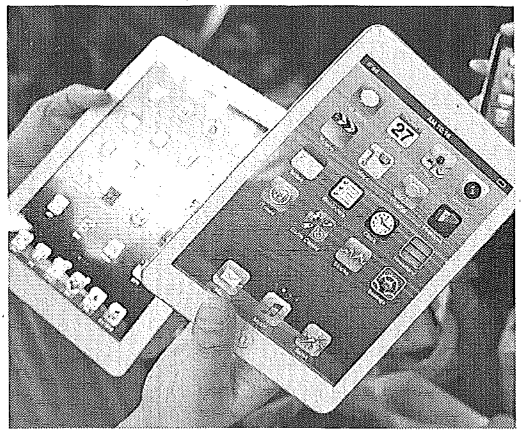
【携帯電話】スマートフォン（スマホ）の普及を追い風に契約総数は増えた。シェアは首位のNTTドコモのみが低下した。米アップルのスマホ「iPhone（アイフォーン）」を販売する2位のKDDI（au）と3位のソフトバンクモバイルへの顧客流出が響いた。4位のイー・アクセスは2012年3月に高速通信サービス「LTE」を始め、対応するデータ通信端末の販売が堅調だった。

【携帯電話端末】米アップルが日本で特に人気の高い主力のスマートフォン（スマホ）「iPhone（アイフォーン）5」で販売を伸ばし、富士通を抜いて首位になった。ソフトバンクとKDDI（au）の2社併売となった効果で大きく販売を積み増した。

富士通は成長性の高いスマホの販売が低調で2位に落ちた。3位は前年同様シャープで、半導体の調達難で主力の省電力スマホの販売を伸ばせなかった。ソニーや韓国サムスン電子は「エクスペリア」や「ギャラクシー」など世界モデルを投入し、徐々にシェアを伸ばしている。

【パソコン】国内出荷台数は前年割れした。消費者がタブレット（多機能携帯端末）など新しい端末への支出を優先したほか、米マイクロソフトの新しい基本ソフト（OS）「ウィンドウズ8」が不振だった。

2011年7月に中国レノボとNECの個人向けパソコン事業が統合したNECレノボグループが、富士通を逆転して首位に立った。12年はNECの出荷台数が通年で寄与し、レノボブランドも低価格を武器に拡販に成功した。富士通は法人向けが堅調だったが、シェアは横ばいで2位となった。



「iPad mini」を発売したアップルはタブレットで3年連続首位だったものの、シェアは減少した＝ロイター

サーバー

富士通「京」の反動で縮小

【サーバー】出荷額は5・1%減少した。低価格のパソコンサーバーの需要が増え、市場の縮小傾向が続く。一方で金融機関などを中心に大型汎用機（メーンフレーム）の更新案件が相次ぎ、市場を下支えした。

首位の富士通は11年のスーパーコンピューター「京」出荷の反動減でシェアを5・5ポイント落とした。3位NECと5位日立製作所はメーンフレームなどが好調だった影響でシェアを伸ばした。

【光ファイバー通信回線】3位のKDDIのシェア拡大が続いている。スマートフォン（スマホ）とのセット割引「スマートバリュー」が奏功しており、シェアを1・8ポイント伸ばした。首位のNTT東日本は導入後2年間の月額利用料金を割り引く「思いっきり割」、2位のNTT西日本は利用年数が長くなるほど利用料が安くなる「光もっともっと割」で対抗したが、それぞれシェアを減らした。新規加入者が大きく増えないなかで、価格以外に便利さなどの訴求ポイントの確立が重要になっている。

【メモリーカード】米レキサー・メディアは任天堂の新型携帯ゲーム機の添付品に採用されたことで出荷量が急増し、昨年10位から2位に急浮上した。台湾のトランセンド・インフォメーションは電子商取引（EC）サイト経由の販売が好調で3位に入った。市場全体ではスマートフォンなどの添付品向けの需要が減少傾向にあり、店頭販売市場でトップシェアの米サンディスクが全体の1位に返り咲いた。

【インクジェットプリンター】国内市場は3・6%増だった。セイコーエプソンは前年から4ポイント近くシェアを落としたが首位を守った。2位のキヤノンは4・6ポイントシェアを伸ばした。3位以下にブラザー工業、米ヒューレット・パッカード（HP）、リコーが入り、上位5社の順位に変動はなかった。

上位2社のシェア差は拮抗しており今後競争が激しくなりそうだ。市場の成長が鈍化するなかで製品の価格下落も進んでおり、各社が差異化を図れる新技術の開発が必要になりそうだ。

キヤノン・ニコン伸びる

デジカメ

キヤノンのミラーレスカメラ「EOS　M」

【デジタルカメラ】スマートフォン（スマホ）の普及でコンパクトカメラの需要が減少し、市場は3%減少した。コンパクトは単価下落が著しく、収益確保が厳しくなっている。高画質画像を撮りたい消費者はデジタル一眼レフカメラやミラーレスを支持。この結果、高級機種から低価格コンパクトまで展開するキヤノンとニコンがシェアを伸ばし、「サイバーショット」ブランドでコンパクトを展開するソニーは3位に後退した。

【デジタル一眼カメラ】国内出荷台数は20%増と大幅に拡大した。スマートフォン（スマホ）の普及などで写真撮影が身近となり、一眼レフカメラなどを使い高画質の画像の撮影を求める消費者が増えている。

ミラーレス一眼「EOS M」を発売したキヤノンがシェアを6ポイント伸ばし1位に返り咲いた。2位のニコンもシェアを高め、ソニーを含めた上位3社で7割超のシェアを占めた。ミラーレス一眼で強みを発揮してきたオリンパスだが12年は大きくシェアを落とした。

【ビデオカメラ】上位企業の顔ぶれは変わらなかった。1位のソニーが大幅にシェアを伸ばし約4割を占めたほか、JVCケンウッドも3割近いシェアを占めた。国内出荷台数は1%増となったが、動画機能を充実させるデジタル一眼カメラも増えており、今後の市場拡大には対応策が求められる。液晶テレビの画質向上に合わせた高画質化もカギになる。

【ブルーレイ・ディスク録再機】国内出荷台数（プレーヤー含む）は51・9%減だった。11年までは薄型テレビの買い替えを追い風に拡大基調にあったが、需要を先取りしたことで12年は大きく落ち込んだ。順位に変動はなく、パナソニックが引き続き首位を維持。シャープ、ソニーが続く形となった。

【薄型テレビ】国内出荷台数は68・1%減。エコポイント制度の終了や地上デジタル放送への完全移行に伴う特需の反動で急減した。シャープ、パナソニック、東芝、ソニーの大手4社が国内市場の8割以上を寡占する状況に変化はなかった。

5位にオリオン電機（福井県）が急浮上した。大手メーカーに比べ機能を絞り込むことで低価格を実現した商品やインターネットとの接続を重視した商品などの投入で販売台数を伸ばし、昨年5

エレクトロニクス

薄型テレビ

①シャープ	35.2（ 0.1）
②パナソニック	20.6（▲1.3）
③東芝	19.5（▲1.2）
3社合計	75.3（▲2.4）
④ソニー	11.6（ 1.2）
⑤オリオン電機	3.2（ 2.6）
国内出荷台数	641万1400台（▲68.1）

出所：米NPDディスプレイサーチ

携帯音楽プレーヤー

①ソニー	52.5（▲1.6）
②アップル	40.8（ 2.2）
2社合計	93.3（ 0.6）
家電量販店の販売台数	519万台（▲20.0）

出所：全体はGfKジャパン、シェアはBCN調べ

複写機・複合機

①キヤノン	22.4（ 1.1）
②リコー	21.2（▲1.6）
③富士ゼロックス	19.9（ 0.8）
3社合計	63.5（ 0.3）
④シャープ	11.3（ 0.4）
⑤コニカミノルタ	6.9（ 0.1）
出荷台数	73万6000台（ 7.9）

出所：米ガートナー

市販用カーナビ

①パナソニック	37.2（▲4.3）
②パイオニア	33.8（ 2.3）
③富士通テン	14.3（ 0.8）
3社合計	85.3（▲1.2）
④JVCケンウッド	7.3（ 5.3）
⑤アルパイン	7.2（ 2.8）
出荷台数	209万7000台（▲7.2）

出所：日経推定

掃除機

①パナソニック	27.9（ 1.2）
②日立アプライアンス	24.3（ 3.1）
③東芝ホームアプライアンス	23.6（ 2.7）
3社合計	75.8（ 7.0）
④シャープ	14.0（ 1.2）
国内出荷台数	524万9000台（▲0.5）

出所：全体は日本電機工業会、シェアは日経推定

ルームエアコン

①パナソニック	25.5（▲1.2）
②ダイキン工業	19.8（ 0.7）
③日立アプライアンス	11.5（ 0.5）
3社合計	56.8（▲1.2）
④三菱電機	11.4（▲0.8）
⑤東芝ホームアプライアンス	10.0（▲0.4）
国内出荷台数	848万7000台（ 2.5）

出所：全体は日本冷凍空調工業会、シェアは日経推定

冷蔵庫

①パナソニック	24.2（▲0.1）
②シャープ	20.3（ 2.5）
③日立アプライアンス	17.6（ 1.8）
3社合計	62.1（ 4.2）
④三菱電機	14.4（▲0.2）
⑤東芝ホームアプライアンス	11.3（▲0.5）
国内出荷台数	422万4000台（▲1.4）

出所：全体は日本電機工業会、シェアは日経推定

洗濯機

①日立アプライアンス	30.6（ 6.7）
②パナソニック	24.9（ 0.9）
③東芝ホームアプライアンス	16.8（▲8.5）
3社合計	72.3（▲0.9）
④シャープ	15.6（ 2.9）
国内出荷台数	482万3000台（▲2.0）

出所：全体は日本電機工業会、シェアは日経推定

IHクッキングヒーター

情報・通信

タブレット

①アップル（米）	46.7（▲9.0）
②富士通	12.7（ 6.9）
③エイスース（台）	9.0（ 7.2）
3社合計	68.4（▲4.2）
④アマゾン・ドット・コム（米）	7.8（ 7.8）
⑤NEC	4.2（ 4.2）
出荷台数	475万台（ 91.7）

出所：IDCジャパン

携帯電話

①NTTドコモ	45.2（▲1.7）
②KDDI（au）	27.7（ 0.3）
③ソフトバンクモバイル	23.9（ 1.3）
3社合計	96.8（▲0.1）
④イー・アクセス	3.2（ 0.1）
※契約数	1億3604万3900件（ 6.1）

出所：電気通信事業者協会の集計値にイー・アクセスの公表値を合算

携帯電話端末

①アップル（米）	25.5（ 8.5）
②富士通	14.4（▲3.5）
③シャープ	14.0（▲2.8）
3社合計	53.9（ 2.2）
④ソニー	9.8（ 0.9）
⑤サムスン電子（韓）	7.2（ 1.4）
※国内出荷台数	4181万台（▲2.2）

出所：MM総研

パソコン

①NECレノボ	25.5（ 9.8）
②富士通	17.5（ 0.0）
③東芝	12.8（ 0.6）
3社合計	55.7（ 10.4）
④ヒューレット・パッカード（米）	9.4（ 0.3）
⑤デル（米）	8.3（▲0.8）
出荷台数	1558万台（▲0.7）

出所：IDCジャパン

サーバー

①富士通	22.2（▲5.5）
②IBM（米）	18.3（▲1.6）
③NEC	17.4（ 2.0）
3社合計	57.9（▲5.1）
④ヒューレット・パッカード（米）	15.4（▲0.6）
⑤日立製作所	13.6（ 4.4）
市場規模	4453億4000万円（▲5.1）

出所：IDCジャパン

光ファイバー通信回線

①NTT東日本	40.9（▲1.0）
②NTT西日本	31.7（▲0.6）
③KDDI	12.0（ 1.8）
3社合計	84.6（ 0.2）
④ケイ・オプティコム	5.9（ 0.1）
⑤UCOM	2.2（ 0.0）
※契約数	2384万8000件（ 6.9）

出所：MM総研

メモリーカード

①サンディスク（米）	12.2（ 0.3）
②レキサー・メディア（米）	12.1（ 8.9）
③トランセンド・インフォメーション（台湾）	10.8（ 4.5）
3社合計	35.1（▲19.8）
④パナソニック	9.6（▲7.4）
⑤東芝	9.4（▲16.6）
出荷量（枚数）	6018万枚（▲21.2）

出所：テクノ・システム・リサーチ

インクジェットプリンター

①セイコーエプソン	42.8（▲3.7）
②キヤノン	42.0（ 4.6）
③ブラザー工業	8.8（ 0.3）
3社合計	93.6（ 1.2）
④ヒューレット・パッカード（HP、米）	5.8（▲1.1）
⑤リコー	0.5（▲0.1）
出荷台数	651万2000台（ 3.6）

出所：米ガートナー

デジタルカメラ

エレクトロニクス

3社合計	93.6（ 1.2）
④ヒューレット・パッカード（HP、米）	5.8（▲1.1）
⑤リコー	0.5（▲0.1）
出荷台数	651万2000台（ 3.6）

出所：米ガートナー

デジタルカメラ

①キヤノン	21.8（ 3.5）
②ニコン	17.3（ 3.0）
③ソニー	16.2（▲0.1）
3社合計	55.3（ 6.4）
④パナソニック	12.5（ 0.0）
⑤オリンパス	11.1（▲1.5）
出荷台数	920万台（▲3.0）

出所：米ＩＤＣ

デジタル一眼カメラ

①キヤノン	30.9（ 6.0）
②ニコン	25.8（ 0.4）
③ソニー	13.8（▲1.7）
3社合計	70.5（ 4.7）
④オリンパス	10.9（▲6.0）
⑤パナソニック	9.9（▲3.1）
出荷台数	180万台（ 20.0）

出所：米ＩＤＣ

ビデオカメラ

①ソニー	39.0（ 8.0）
②ＪＶＣケンウッド	29.8（ 0.3）
③パナソニック	22.9（▲2.6）
3社合計	91.7（ 5.7）
④キヤノン	8.6（▲5.4）
出荷台数	174万台（ 1.0）

出所：日経推定

ブルーレイ・ディスク録再機

①パナソニック	29.5（▲6.5）
②シャープ	26.6（ 3.5）
③ソニー	21.6（ 4.6）
3社合計	77.7（▲3.6）
④東芝	20.8（▲1.4）
⑤三菱電機	1.0（ 0.0）
国内出荷数量	326万5000台（▲51.9）

出所：全体は電子情報技術産業協会、シェアは日経推定

ＩＨクッキングヒーター

①パナソニック	54.9（ 2.9）
②日立アプライアンス	24.5（▲0.6）
③三菱電機	16.8（▲1.3）
3社合計	96.2（ 1.0）
④東芝ホームアプライアンス	3.4（▲1.4）
国内出荷台数	73万7000台（▲7.9）

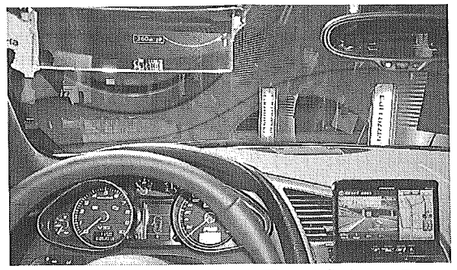
出所：全体は日本電機工業会、シェアは日経推定

3社合計	72.3（▲0.9）
④シャープ	15.6（ 2.9）
国内出荷台数	482万3000台（▲2.0）

出所：全体は日本電機工業会、シェアは日経推定

カーナビ

パナソニックにパイオニア肉迫



カーナビはスマホとの差異化が求められている（パイオニアの「サイバーナビ」）

【市販用カーナビゲーション】市場規模は7・2%減と縮小。ナビ機能が充実するスマートフォン（スマホ）との差異化が求められている。2位のパイオニアは目線をそらさずに情報を確認できる「ヘッドアップディスプレー」の製品を投入し、首位パナソニックとの差を縮めた。5位のアルパインは子育て家族層をターゲットにしたビッグXシリーズなどの販売が好調で、シェアを伸ばした。

【掃除機】出荷台数は0・5%減だった。上位4社はすべて前年よりもシェアを伸ばした。前回4位だった三洋電機が首位のパナソニックに買収されたことが影響したものとみられる。2位の日立アプライアンスは軽量のサイクロン式掃除機などを投入した効果で、市場シェアを前年から3・1ポイント伸ばした。

【ルームエアコン】国内出荷台数は2・5%増の848万7千台と、過去最高を記録した。パナソニックとダイキン工業の上位2社の順位に変化がなかった。ダイキンは2012年11月に新冷媒を使って消費電力を削減する新機種を投入している。前年4位だった日立アプライアンスが三菱電機をかわして3位に浮上した。

【冷蔵庫】国内出荷台数は1・4%減で、上位5社の順位に変動はなかった。市場全体としては500リットル以上の大容量製品への移行が進んでいるが、2位のシャープは比較的小型の機種で人気を集めてシェアを2・5ポイント伸ばした。3位の日立アプライアンスも1・8ポイント伸ばした。670リットルなどの大容量製品や、炭酸ガスが食材を包み込むことで鮮度を落ちにくくする機能が注目を集めた。

【洗濯機】国内出荷台数は2%減少した。前年までシェア首位だった東芝ホームアプライアンスがタイの洪水の影響によって一時的に製品を出荷できなくなり、大きくシェアを落とした。

一方で前年3位の日立アプライアンスが縦型の「ビートウォッシュ」シリーズの大容量機種や、洗濯槽を清潔に保つ機能などで人気を集め、シェアを7ポイント近く伸ばして首位に立った。パナソニックも小型のドラム式機種「プチドラム」などを武器に前年に続いて2位を保った。

【ＩＨクッキングヒーター】国内出荷台数は約8%減。電力多消費型の製品というイメージがあるため2011年の東日本大震災以来、消費者離れが続いているとみられる。電力各社も普及活動の余力がなくなっている。首位のパナソニックが5割以上のシェアを握り、2～4位の3社はシェアを落とした。

【携帯音楽プレーヤー】全国の家電量販店での販売台数は20%減と、スマートフォン（スマホ）の普及で縮小傾向にある。高音質にこだわる消費者の根強い需要が市場を下支えしている。11年に首位に立ったソニーが12年も引き続き1位を維持した。ソニーと米アップルの2強が9割以上のシェアを占める構図が続いている。

【複写機・複合機】国内市場は7・9%増だった。2011年は東日本大震災の影響で投資が抑制されたが12年に入り徐々に回復した。首位は前年2位だったキヤノンが浮上した。小型機で販売台数を大きく伸ばしたことが要因と見られる。

2位にリコーが入り3位以下の富士ゼロックス、シャープ、コニカミノルタに順位変動はなかった。各社は製品単体ではなくサービス事業と組み合わせて収益拡大を進めている。

《表の見方》

①シェアの単位は%、カッコ内は同一企業のシェアの前年比変動ポイント、▲は低下。合併などで誕生した新会社は合併会社の前年のシェアが合計できる場合に合算した数字と比較した。市場規模のカッコ内は前年比増減率で、単位%。▲は減。

②シェアは小数点第2位を四捨五入した。3社合計の変動ポイントは前年の上位3社の単純合計との差。

③一は前年比較できない場合など。

④0.0はシェア、市場規模がほとんど変化しなかった場合で、横ばいと見なした。

⑤市場規模や各社のシェアに業界団体や調査会社がまとめた統計を使った場合は出所を明記した。複数の有力企業などに日本経済新聞社が取材してまとめた場合は「日経推定」とした。

⑥出所を明記した場合のシェア変動ポイントは出所先の前年比較を利用。

⑦5位以内でもシェアが少ないなど把握が難しい場合は、企業名などを掲載しない場合がある。

⑧シェアの割り出しは原則、暦年ベースだが、出荷台数などの前に※が付いている品目は年度ベース。

《調査方法》

個別品目ごとのシェアは対象商品・サービスを製造・販売・提供する企業や業界への取材、政府統計などを基に日本経済新聞社がまとめた。品目によっては、信頼性の高いデータがある場合に調査データをそのまま使用し、出所を明記した。市場規模は原則、輸入を含む販売、輸入を含む出荷、生産などの額または量。より実態に合わせるために、前年と調査方法を変え、新たな基準で前年の数値を算定し直した品目もある。

《前年調査からの品目の変更》

タブレットを追加、宅配便を除外した。

《前年からの主な変更点》

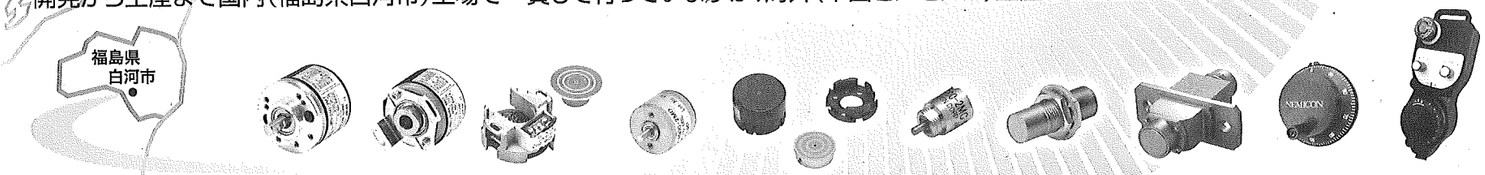
携帯音楽プレーヤー、メモリーカード、パソコン、複写機・複合機、人材派遣は市場規模やシェアの出典、調査方法を見直した。

NEMICON ROTARY ENCODER

NEMICON

ネミコンは回転制御と検出のエキスパートです。

工作機械、半導体製造装置を始め、医療機器、エレベータ等、幅広い産業分野で高機能、高信頼のロータリーエンコーダおよびセンサをお届けしています。
開発から生産まで国内（福島県白河市）工場で一貫して行っていますが、海外（中国とアセアン）生産のご要望にもお応えしています。



2012年4月白河事業所
ロータリーエンコーダ累計生産
1,000万台達成

φ7、φ18、φ38、φ50の標準ロータリーエンコーダシリーズを揃えています。　カスタム品開発もお気軽にご相談下さい。

ネミコン株式会社

弊社は三成電気としてスタートして以来、今年で創立43年目を迎えます。
現在はグローバルに活躍する先端技術企業アバゴ・テクノロジーのグループ企業です。　AVaGO TECHNOLOGIES　http://www.nemicon.co.jp

本社：〒105-0004 東京都港区新橋5丁目8-11 オリックス新橋ビル6F　TEL. 03-5776-1711　FAX.03-5776-1720
営業所 / 大阪：TEL. 06-6133-5725　名古屋：TEL. 052-959-2533　E-mail : encoder@nemicon.co.jp

トヨタ、HVで快走

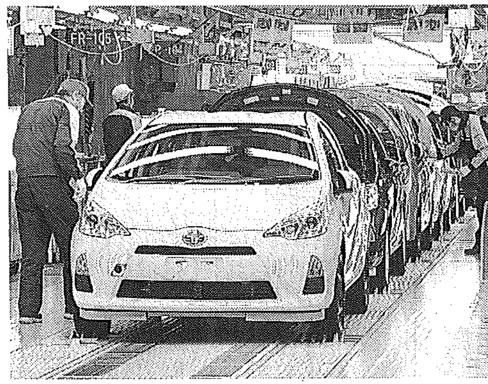
国内シェア100品目（1面参照）

表中の網掛け品目が首位交代

乗用車

【乗用車】（軽自動車を除く）国内販売台数は、2012年9月まで続いたエコカー補助金効果により26・3%増と大幅に伸びた。燃費性能の高い登録車には10万円が交付されたため、HV（ハイブリッド車）を中心に好調だった。

首位のトヨタ自動車は「プリウス」と「アクア」のHV2車種が人気で、シェアを4・8ﾎﾟｲﾝﾄ高めた。「フィット」が好調だったホンダは日産自動車を抜き2年ぶりに2位に浮上。富士重工業は小型SUV（スポーツ車）「インプレッサ」のヒットで、スズキを抜いて5位だった。



トヨタはHV2車種が人気（関東自動車工業岩手工場の「アクア」生産ライン、岩手県金ケ崎町）

輸入乗用車

VW、首位守る

【輸入乗用車】新規登録台数は主要ブランドが投入した低燃費コンパクトカーの人気などで15・3%増と大きく伸びた。首位は昨年に続いて独フォルクスワーゲンで、小型車「up!（アップ）」がけん引役となった。小型車「Bクラス」が人気の独メルセデス・ベンツが、前年4位から1つ順位を上げた。

【軽自動車】エコカー補助金の影響で販売台数は約3割伸びた。燃費性能の高い車種など新車投入が相次いだことが大きい。3位のホンダが超背高型と呼ばれる「N BOX」で攻勢をかけてシェアをほぼ倍増させた。市場全体が伸びたこともあり首位ダイハツ工業がシェアを1・7ﾎﾟｲﾝﾄ落とし、2位のスズキも30%を割り込んだ。

【普通トラック】国内販売台数（積載量4ﾄﾝ以上）は30・3%伸びた。エコカー補助金と東日本大震災の復興需要で大幅な増加となった。いすゞ自動車は2011年に中型トラックの排ガス装置で不具合が発生し、一時出荷を見合わせていたが、12年はその反動で販売台数を大きく伸ばし、2年ぶりに1位に返り咲いた。

【二輪車】販売台数は2・0%減だった。排気量126cc以上の軽二輪と小型二輪は好調だったが、全体の6割を占める原付き第1種が前年実績を下回った。首位のホンダは1・9ﾎﾟｲﾝﾄシェアを伸ばした。排気量700ccの「NC700X」や150ccの「PCX150」がヒットし、5割超のシェアを維持。ヤマハ発動機は新製品が少なかったことなどが影響してシェアを1・1ﾎﾟｲﾝﾄ落とした。

【タイヤ】ブリヂストンなどの国内生産量（ゴム量ベース）は5・4%減だった。景気低迷の欧州などへの輸出が減ったことが大きい。国内向け出荷はエコカー補助金で自動車販売が押し上げられて伸びたが、輸出減を補えなかった。首位のブリヂストンはシェアを0・1ﾎﾟｲﾝﾄ伸ばした。低燃費性とウエットグリップ性の高い乗用車の市販用商品を発売したことが寄与した。

家庭用ゲームソフト

任天堂、ヒット連発

購入した任天堂の新型家庭用ゲーム機「Wii U」を手に笑顔の人たち

【家庭用ゲームソフト】1位の任天堂は「とびだせ どうぶつの森」や「New スーパーマリオブラザーズ2」など同社の携帯型機向けソフトがミリオンセラーとなり、シェアを伸ばした。「ドラゴンクエスト」シリーズのソフトを相次ぎ発売したスクウェア・エニックス・ホールディングスは前年の4位から3位に浮上した。

【家庭用ゲーム機】首位の任天堂が2位以下との差を大きく広げた。携帯型の「ニンテンドー3DS」が人気ソフトの登場で販売数を大幅に伸ばしたほか、年末には据え置き型の新機種「Wii U」を発売したことが貢献した。2位のソニー・コンピュータエンタテインメントは携帯型機の値下げで販売を増やしたが、据え置き型がモデル末期で振るわなかった。

【ポータルサイト】ニュース閲覧や検索などを含めた国内主要11サイトの閲覧数（家庭用パソコンからのアクセスのみ）は12・0%減った。急速に普及するスマートフォン（スマホ）からの閲覧が増え、相対的にパソコンからのアクセスが減ったもようだ。幅広いサービスを持つ1位のヤフーが依然として70%近くのシェアを握る。

【動画サイト】家庭用パソコンからの動画サイトの総
%減。
ーチュ
の「ニ
強体制
ーチュ
を充実
画は将

映画

【映
・7%
画が好
続いて
は、フ
作した
大捜査

国内航空

全日空、787

【国内航空】ボーイング787型機の運航停止の影響
ラブル
有して
シェア
機の運
がつか
たため
Cと競
線の旅
CCで
エーシ
・5%
LCC
などを
カイマ

羽田空
機と全

サービス

国内航空

①全日本空輸グループ	44.6	（▲4.7）
②日本航空グループ	34.9	（▲1.7）
③スカイマーク	7.8	（0.2）
3社合計	87.3	（▲6.2）
④北海道国際航空（エア・ドゥ）	2.3	（0.0）
⑤スカイネット・アジア航空	1.6	（0.2）
※国内定期便の旅客数	8597万人	（8.7）

出所：全体は国土交通省、シェアは日経推定

国際航空貨物

①日本通運	22.8	（0.6）
②郵船ロジスティクス	13.1	（▲0.2）
③近鉄エクスプレス	12.6	（▲0.1）
3社合計	48.5	（0.3）
④阪急阪神エクスプレス	5.8	（▲0.5）
⑤西日本鉄道	5.6	（0.2）
※市場規模（輸出）	85万6295ﾄﾝ	（▲14.1）

出所：全体は航空貨物運送協会、シェアは日経推定

国内旅行

①ＪＴＢグループ	23.1	（▲0.1）
②楽天トラベル	7.9	（0.6）
③近畿日本ツーリスト	6.8	（1.0）
3社合計	37.8	（1.3）
④日本旅行	6.0	（0.0）
⑤ＡＮＡセールス	4.6	（▲0.1）
※取扱高	3兆9374億円	（4.5）

出所：全体は観光庁、シェアは日経推定

海外旅行

①ＪＴＢグループ	21.7	（▲1.4）
②エイチ・アイ・エス	14.9	（0.0）
③阪急交通社	11.0	（0.4）
3社合計	47.6	（▲1.0）
④近畿日本ツーリスト	6.4	（0.2）
⑤日本旅行	5.9	（▲0.1）
※取扱高	2兆3419億円	（5.3）

出所：全体は観光庁、シェアは日経推定

ホテル

①プリンスホテル	9.8	（0.6）
②東急グループ	5.8	（0.0）
③阪急阪神第一ホテルグループ	4.2	（▲0.1）
3社合計	19.8	（0.5）
④ホテルオークラ	4.0	（0.0）
⑤ニュー・オータニ	3.9	（0.1）
※国内売上高	1兆5540億円	（5.0）

出所：日経推定

クレジットカード

①三菱ＵＦＪニコス	13.6	（▲1.1）
②三井住友カード	11.8	（▲0.1）
③クレディセゾン	10.3	（▲0.3）
3社合計	35.7	（▲1.5）
④イオンフィナンシャルサービス	10.1	（1.5）
⑤トヨタファイナンス	8.1	（—）
※ショッピング利用額	34兆623億円	（6.5）

出所：全体は経済産業省、シェアは日経推定

リース

①東京センチュリーリース	11.1	（1.1）
②三井住友ファイナンス＆リース	10.7	（0.0）
③三菱ＵＦＪリース	10.6	（0.5）
3社合計	32.4	（1.6）
④オリックス	9.5	（0.2）
⑤芙蓉総合リース	7.5	（—）
※リース取扱高	5兆1348億円	（6.0）

出所：全体、シェアともに日経推定

電子マネー

①セブン＆アイ・ホールディングス（ナナコ）	28.1	（2.7）
②東日本旅客鉄道（スイカ）	25.1	（▲0.4）
③イオン（ワオン）	24.4	（0.2）
3社合計	77.6	（2.6）
④楽天（エディ）	13.4	（▲2.4）
⑤首都圏の私鉄・バス（パスモ）	7.6	（▲0.4）
※決済件数	28億9024万件	（20.1）

出所：日経推定

人材派遣

ネット・メディア

家庭用ゲームソフト

①任天堂	32.4	（8.6）
②バンダイナムコホールディングス	16.3	（▲2.0）
③スクウェア・エニックス・ホールディングス	9.8	（1.4）
3社合計	58.5	（8.0）
④カプコン	7.3	（▲1.6）
⑤コナミ	5.7	（▲2.2）
※販売本数	5059万本	（0.4）

出所：エンターブレイン

家庭用ゲーム機

①任天堂	70.4	（11.5）
②ソニー・コンピュータエンタテインメント	28.5	（▲11.2）
③マイクロソフト（米）	0.6	（▲0.3）
3社合計	99.5	（0.0）
④その他	0.5	（0.0）
※販売台数	974万6000台	（0.8）

出所：エンターブレイン

ポータルサイト

①ヤフー	69.1	（▲0.5）
②グーグル	11.4	（▲0.2）
③マイクロソフト	4.0	（0.3）
3社合計	84.5	（▲0.4）
④ＮＨＮジャパン（現ＬＩＮＥ）	3.0	（0.6）
⑤ＮＴＴレゾナント	2.7	（0.1）
主要11サイトの閲覧数	2855億5400万件	（▲12.0）

出所：閲覧数およびシェアはニールセン、サイト選定は日経

動画サイト

①ユーチューブ（米グーグル）	57.5	（▲6.8）
②ニコニコ動画（ニワンゴ）	24.9	（3.6）
③ギャオ！（ヤフー）	5.3	（0.0）
3社合計	87.7	（▲3.2）
④ＦＣ２動画（米ＦＣ２）	4.1	（—）
⑤ウーピー（アクセスポート）	2.1	（▲0.5）
家庭用パソコンからの総利用時間	413億2114万分	（▲0.9）

出所：ニールセン

プロバイダー

①OCN（NTTコミュニケーションズ）	17.7	（▲2.2）
②Yahoo!BB（ソフトバンク）	12.0	（0.9）
③au one net（ＫＤＤＩ）	8.9	（1.3）
3社合計	38.6	（▲0.6）
④BIGLOBE（NECビッグローブ）	8.1	（0.6）
⑤ぷらら（ＮＴＴぷらら）	7.3	（▲0.9）
ブロードバンド回線契約数	5359万件	（42.1）

出所：全体は総務省、シェアは光ファイバー、ＡＤＳＬ、ＣＡＴＶを対象に日経推定

映画

①東宝	38.0	（5.4）
②東映	9.0	（▲0.2）
③ワーナー・ブラザーズ映画（米）	7.9	（▲2.0）
3社合計	54.9	（3.2）
④ソニー・ピクチャーズエンタテインメント	6.4	（2.9）
⑤東宝東和	5.1	（2.7）
国内興行収入	1951億円	（7.7）

出所：全体は日本映画製作者連盟、シェアは日経推定

出版

①リクルート	15.5	（1.0）
②集英社	6.0	（0.0）
③講談社	5.2	（0.1）
3社合計	26.7	（1.1）
④小学館	5.1	（0.0）
⑤ＫＡＤＯＫＡＷＡ	4.0	（0.0）
国内販売額	2兆3585億円	（1.9）

出所：日経推定

広告

①電通	24.0	（▲0.2）
②博報堂	10.4	（0.5）
③アサツーディ・ケイ	5.2	（▲0.1）
3社合計	39.6	（0.2）
④大広	2.1	（▲0.1）
⑤ＪＲ東日本企画	1.7	（0.2）
総広告費	5兆8913億円	（3.2）

出所：全体は電通、シェアは日経推定

ＤＶＤソフト

自動車

乗用車（軽自動車を除く）

①トヨタ自動車	49.8	（4.8）
②ホンダ	14.1	（▲1.8）
③日産自動車	13.1	（▲3.3）
3社合計	77.0	（▲0.3）
④マツダ	5.0	（▲0.5）
⑤富士重工業	3.6	（—）
販売台数	301万4651台	（26.3）

出所：日本自動車販売協会連合会

輸入乗用車

①フォルクスワーゲン	18.7	（▲0.7）
②日産自動車	14.1	（▲5.2）
③メルセデス・ベンツ	13.9	（1.2）
3社合計	46.7	（▲5.1）
④ＢＭＷ	13.7	（0.6）
⑤アウディ	8.0	（▲0.1）
輸入車の新規登録台数	30万594台	（15.3）

出所：日本自動車輸入組合

軽自動車

①ダイハツ工業	34.1	（▲1.7）
②スズキ	29.6	（▲1.7）
③ホンダ	16.2	（8.0）
3社合計	79.9	（3.2）
④日産自動車	7.7	（▲1.9）
⑤三菱自動車	4.0	（▲2.1）
販売台数	197万9446台	（30.1）

出所：全国軽自動車協会連合会

普通トラック

①いすゞ自動車	34.9	（6.2）
②日野自動車	33.8	（▲4.5）
③三菱ふそうトラック・バス	18.7	（1.3）
3社合計	87.4	（3.0）
④ＵＤトラックス	12.6	（▲3.0）
国内販売台数	6万9232台	（30.3）

出所：日経推定

二輪車

①ホンダ	53.3	（1.9）
②ヤマハ発動機	22.5	（▲1.1）
③スズキ	17.9	（0.0）
3社合計	93.7	（0.8）
④川崎重工業	2.8	（▲0.1）
⑤ハーレーダビッドソン（米）	2.8	（0.1）
販売台数	41万5500台	（▲2.0）

出所：日経推定

タイヤ

①ブリヂストン	47.1	（0.1）
②住友ゴム工業	24.8	（0.7）
③横浜ゴム	15.3	（▲0.9）
3社合計	87.2	（▲0.1）
④東洋ゴム工業	11.8	（0.1）
国内生産量	114万6905ﾄﾝ	（▲5.4）

出所：全体は日本自動車タイヤ協会、シェアは日経推定

3社合計	77.6	(▲2.6)
④楽天(エディ)	13.4	(▲2.4)
⑤首都圏の私鉄・バス(パスモ)	7.6	(▲0.4)
※決済件数	28億9024万件	(▲20.1)

出所：日経推定

人材派遣

①リクルートホールディングス	8.0	(0.6)
②テンプホールディングス	4.7	(0.4)
③パソナグループ	3.1	(0.4)
3社合計	15.8	(1.4)
④アデコ	2.8	(0.2)
⑤マンパワーグループ	1.8	(0.2)
総売上高	4兆2200億円	(▲5.4)

出所：日経推定

ゴルフクラブ

①ダンロップスポーツ	25.8	(3.5)
②テーラーメイドゴルフ	16.0	(2.3)
③ブリヂストンスポーツ	13.6	(▲0.8)
3社合計	55.4	(5.0)
④キャロウェイゴルフ	10.3	(▲0.8)
⑤ミズノ	7.0	(0.3)
※国内生産―輸出＋輸入	781億円	(2.0)

出所：日経推定

硬式テニスラケット

①ダンロップスポーツ	28.1	(2.7)
②アメアスポーツジャパン	26.7	(0.7)
③ヨネックス	20.8	(0.4)
3社合計	75.6	(3.8)
④グローブライド	14.5	(▲0.2)
※国内生産―輸出＋輸入	58億円	(5.5)

出所：日経推定

【リース】東日本大震災の復興需要などを追い風に、取扱高は6%増えた。前年首位だった三井住友ファイナンス&リースが2位に後退し、東京センチュリーリースが首位に浮上した。同社は国内の格安航空会社(LCC)向けの航空機リースが好調で、全体を押し上げた。

【電子マネー】セブン&アイ・ホールディングスの「ナナコ」がシェアを2・7%伸ばし、首位に返り咲いた。グループのコンビニエンスストア「セブンイレブン」が約1350店舗を新規出店して会員獲得が進み、発行枚数が増えた。

【人材派遣】年後半から需要は回復しつつある。特に技術者や証券外務員など技術や資格を持った人材の派遣は伸びている。ただ中心の事務系は依然として低迷している。各社のシェアに大きな変化はなかった。

【ゴルフクラブ】レジャー自粛ムードの反動で市場拡大の傾向が見られた。競技人口は依然伸び悩んでいる。首位のダンロップスポーツは「ゼクシオセブン」が好調でシェアを伸ばした。

【硬式テニスラケット】テニス用品市場は拡大に転じた。ダンロップスポーツが首位に浮上した。輸入販売する「バボラ」の「NEWピュアドライブ」の大ヒットが寄与した。2位に下がったアメアスポーツジャパンは、錦織圭プロのモデル「スティームプロ」の勢いが鈍ったようだ。

3社合計	39.6	(0.2)
④大広	2.1	(▲0.1)
⑤JR東日本企画	1.7	(0.2)
総広告費	5兆8913億円	(3.2)

出所：全体は電通、シェアは日経推定

DVDソフト

①ソニー・ミュージックエンタテインメント	10.2	(0.3)
②エイベックス・グループ・ホールディングス	7.6	(2.2)
③バンダイビジュアル	5.4	(1.6)
3社合計	23.2	(2.1)
④ワーナー・ホーム・ビデオ	4.5	(▲1.3)
⑤ジェイ・ストーム	4.0	(▲0.6)
売上高	2584億円	(▲1.0)

出所：全体は日本映像ソフト協会、シェアはオリコンを基に日経推定

音楽ソフト

①エイベックス・グループ・ホールディングス	14.9	(1.6)
②ソニー・ミュージックエンタテインメント	14.4	(▲2.1)
③ユニバーサルミュージック	9.5	(▲2.1)
3社合計	38.8	(▲2.6)
④キングレコード	7.0	(0.2)
⑤ジェイ・ストーム	5.4	(▲0.6)
生産金額	2277億円	(8.0)

出所：全体は日本レコード協会、シェアはオリコンを基に日経推定

羽田空港に駐機する日航機と全日空機

日空、787停止が打撃

航空

の影響が大きく出た。トラブル発生当時、17機保有していた全日本空輸がシェアを落とした。主力機の運航停止で機材繰りがつかず欠航便が多発したため。日本航空はLCCと競合する成田や関空線の旅客が減少した。LCCでは、ピーチ・アビエーションのシェアが1・5%と5位に迫る勢い。LCCに対抗して成田線などを拡張した3位のスカイマークがシェアを伸ばした。

【国際航空貨物】輸送コストが海上に比べ割高な航空貨物(輸出)は、円高や企業のコスト削減の動きで大幅に減った。順位やシェアには大きな変動はなく、首位の日本通運が20%超のシェアを維持した。

【国内旅行】主要58社の取扱高は4・5%増だった。2012年5月に開業した東京スカイツリー(東京・墨田)効果が大きかった東京都などで観光客が増えた。首位のJTBはパッケージツアーに「エースJTB」などを中心に伸ばした。

【海外旅行】主要58社の取扱高は5・3%増だった。最盛期の夏休みシーズンに円高基調で推移し、旅行者数が過去最高水準となった。首位のJTBはパックツアーの主力商品「ルックJTB」が堅調だった。

【ホテル】国内主要ホテルの総売上高は5%増加した。東日本大震災で落ち込んだ宿泊が回復。訪日外国人の増加もあり客室稼働率が上昇した。宴会需要なども徐々に盛り返している。国際会議関連の需要を取り込んだ首位のプリンスホテルがシェアを伸ばした。

【クレジットカード】消費回復に伴い市場規模は拡大した。4位のイオンフィナンシャルサービスが主婦層を中心に会員を開拓した。またトヨタファイナンスが前年5位だったセディナを抜いた。トヨタの販売店やガソリンスタンド、自動料金収受システム(ETC)での決済が増えた。

【リース】東日本大震災の復興需要などを追い風に、取扱高は6%増えた。前年首位だった三井住友ファイナンス&リースが2位に後退し、東京センチュリーリースが首位に浮上した。同社は国内の格安航空会社(LCC)向けの航空機リースが好調で、全体を押し上げた。

【電子マネー】セブン&アイ・ホールディングスの「ナナコ」がシェアを2・7%伸ばし、首位に返り咲いた。グループのコンビニエンスストア「セブンイレブン」が約1350店舗を新規出店して会員獲得が進み、発行枚数が増えた。

【人材派遣】年後半から需要は回復しつつある。特に技術者や証券外務員など技術や資格を持った人材の派遣は伸びている。ただ中心の事務系は依然として低迷している。各社のシェアに大きな変化はなかった。

【ゴルフクラブ】レジャー自粛ムードの反動で市場拡大の傾向が見られた。競技人口は依然伸び悩んでいる。首位のダンロップスポーツは「ゼクシオセブン」が好調でシェアを伸ばした。

【硬式テニスラケット】テニス用品市場は拡大に転じた。ダンロップスポーツが首位に浮上した。輸入販売する「バボラ」の「NEWピュアドライブ」の大ヒットが寄与した。2位に下がったアメアスポーツジャパンは、錦織圭プロのモデル「スティームプロ」の勢いが鈍ったようだ。

映画

「海猿」「踊る」効果 東宝が突き放す

【映画】国内市場は7・7%増えた。全般に邦画が好調だった。前年に続いて首位だった東宝は、フジテレビと共同制作した「海猿」や「踊る大捜査線」などのシリーズの興行収入が50億円を超え、シェアも5・4%伸ばした。洋画ではソニー・ピクチャーズエンタテインメントが「バイオハザード」シリーズなどをヒットさせ、前年の8位から4位に食い込んだ。

【出版】国内市場は1・9%増だった。書籍や雑誌は微減となったが、電子書籍が成長してきたことが寄与した。首位のリクルートは人材採用広告や子フリーペーパーが好調で、シェアを1・0%伸ばした。2~5位の顔ぶれは変わらず、各社ともシェアが微増または横ばいだった。

【広告】日本の総広告費は5年ぶりにプラスに転じた。東日本大震災による広告出稿の自粛が一巡。夏のロンドン五輪向けに出稿が旺盛だった。上位3社の顔ぶれは不動。2位の博報堂は自動車や電機業界への営業攻勢を強め、シェアを伸ばした。前年5位圏外だったJR東日本企画が5位に浮上した。

【DVDソフト】売上高(ブルーレイ・ディスク含む)は8年連続で前年を割り込んだ。ブルーレイは好調だが従来型DVDは低迷。洋画を中心にレンタルや動画配信に利用者が流れている。音楽DVDは好調で、EXILEなど人気歌手を抱える2位のエイベックス・グループ・ホールディングスがシェアを大きく伸ばした。

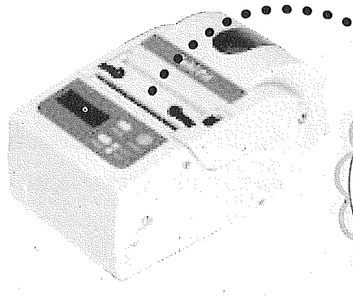
【音楽ソフト】生産金額は14年ぶりに前年実績を上回った。アイドルの楽曲が人気を博したほか、桑田佳祐などベテラン人気歌手のベスト盤が好調だった。EXILEなど人気歌手を多数抱えるエイベックス・グループ・ホールディングスが5年ぶりに首位を奪取。AKB48が所属するキングレコードもシェアを伸ばした。洋楽に強い企業は伸び悩んだ。

会などで幅広い世代の視聴につなげた。

【プロバイダー(インターネット接続事業者)】ブロードバンド回線契約数は42・1%増だった。ADSL(電話回線を使ったデジタル高速通信)の落ち込みを光ファイバーが補い、スマートフォン(スマホ)など向けの高速通信サービス「LTE」が底上げする構図だ。OCN(NTTコミュニケーションズ)が首位を堅持した。

HALLO タイムプリンタ
Toki Pri

お客様への新しいサービス ―― リアルタイム表示とオリジナルメッセージ



あなたのお店に
安心&個性を

内蔵の時計機能による安心発行で、無駄や間違いを防ぎます。
時計を内蔵しているので、お客様に商品をお渡しする日付や消費期限などを時間まで表示することができます。
あらかじめ印字しておく手間や、ムダ、うっかりミスを防ぎます。

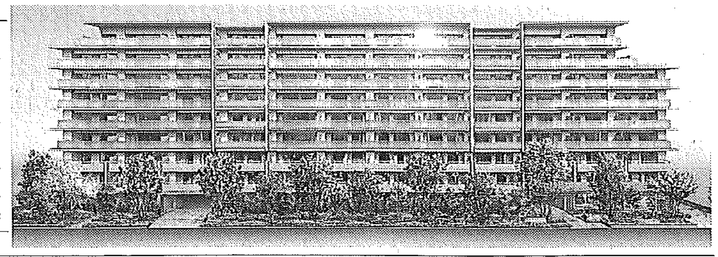
オリジナルメッセージのラベルが作成できます。
お店独自のメッセージ内容を印字することができます。
お買上げ日・賞味期限・消費期限・保存方法はもちろん、お祝いや感謝の言葉など、さまざまなメッセージがレイアウトできます。

さらに オリジナルラベルで個性を演出。
お店や商品に合わせたオリジナルラベルで個性を演出。

Shinsei
株式会社
新盛インダストリーズ
本社
〒114-0004 東京都北区堀船4-12-15
TEL (03)3913-0131 FAX (03)3913-9607
大阪営業所
〒540-0015 大阪市中央区十二軒町4-2 岸本産業谷町ビル
TEL (06)6765-4381 FAX (06)6765-4382
http://www.shinseiind.co.jp

野村不、初めて首位に

マンション



野村不動産が埼玉県内で発売するオハナ物件（完成イメージ）

【マンション】野村不動産が販売戸数を大幅に伸ばして初めてトップになった。都心の高級マンション「プラウド」に加え、郊外の割安ブランド「オハナ」が好調だった。野村不動産ＯＢを事業責任者に招くなどマンション事業を強化している大和ハウス工業が6位から5位に浮上した。13年もコスモスイニシアを買収するなど攻勢を強めている。大京は数量を追わず個別物件の収益性を重視し、4位から6位に後退した。

【戸建て住宅】市場の8～9割近くを地場の工務店が占める。安倍晋三首相の経済政策「アベノミクス」の効果もあり、都市部に特化する旭化成ホームズが前年の5位から2位へと飛躍した。全国規模で展開する積水ハウスは首位の座を守ったが、若干シェアを落とした。2013年も住宅ローン金利の上昇懸念や消費税増税前の駆け込み需要で競争が激しい。

【木造住宅用アルミサッシ・ドア】上位3社の順位に変動はなかった。首位のＬＩＸＩＬグループは2011年のタイ洪水で現地工場が生産停止した影響が前半残ったが、断熱性能の高い窓「サーモス」の販売が伸びた。2位のＹＫＫＡＰは省エネ製品が好調だった。

サントリー「プレモル」効果

ビール系飲料

【ビール系飲料】東日本大震災で被災した工場の生産が回復し上半期は好調だったものの、後半に失速した。首位は3年連続でアサヒビールが堅持したが、2位キリンビールとともにシェアは減少。3位のサントリー酒類は高級ビール「ザ・プレミアム・モルツ」の中身を刷新し、シェアを大幅に伸ばした。サッポロビールは第三のビールの好調がシェアを押し上げた。

【第三のビール】景気低迷による消費者の節約志向でビールに比べて割安な同分野の人気が持続した。首位のキリンビールは主力の「のどごし〈生〉」が前年割れとなりシェアを0・6ポイ減らした。2位のサントリー酒類は「金麦」が前年を上回ったことなどで、シェアを1・6ポイ伸ばした。サッポロビールも新商品を積極的に投入し前年実績を上回った。

【ウイスキー】炭酸水で割った「ハイボール」ブームを機に本格的なウイスキーを飲む人が増え始めており、市場は緩やかに成長した。首位のサントリー酒類は有力ブランド「山崎」「白州」で売れ筋の半額程度の廉価版を投入し、若者を取り込みシェアを伸ばした。アサヒビールとキリンビールは主力商品が苦戦しシェアを減らした。

売り場にずらりと並ぶサントリーの「ザ・プレミアム・モルツ」

【清涼飲料】国内販売量は3年連続のプラス。東日本大震災の影響で一時発売できなかった新商品が遅れて出てきたことや夏の猛暑、震災で急伸したミネラルウオーターが国産品を中心に堅調だったことが寄与した。上位2社はわずかにシェアを落とし、3～5位の伊藤園、アサヒ飲料、キリンビバレッジが伸ばした。キリンビバは特定保健用食品の「メッツコーラ」が602万ケースのヒットとなった。

【ミネラルウオーター】生産量（輸入品含む）は3年ぶりにマイナスとなった。東日本大震災以降の特需で急伸した流れを引き継ぎ国産品は堅調だったが、単価の高い輸入品が苦戦した。上位2社は主力品の販売が伸びた。輸入の「クリスタルガイザー」が苦戦した大塚食品はシェアを落とし、低価格の国産品を新たにそろえた伊藤園が5位に浮上した。

【冷凍食品】家庭用を中心に需要が伸びた。6年連続の首位を保ったニチレイは、鶏肉類が好調だった。2位のマルハニチロホールディングスは業務用冷凍食品の中堅メーカーのヤヨイ食品を買収し、シェアを3・3ポイ伸ばした。ヤヨイ食品は東日本大震災で主力工場が被災して経営が悪化していた。

【即席めん】震災の復興需要があった2011年の反動で、12年は1%減となった。2位の東洋水産は11年11月に発売した「マルちゃん正麺」が

年間3…　生麺の…　感で、…

医療用医薬品

【医療用医薬品】薬価改定で引き下げがあり、売上金額は0・3%増だった。1位の武田薬品工業と2位のアステラス製薬は生活習慣病分野の主力品の売り上げが減少した。3位の第一三共は認知症治療薬などの販売が伸びた。前年7位だった中外製薬がエーザイを抜いて5位に入った。抗がん剤の売り上げが順調に伸びたほか、2011年に発売した骨粗しょう症治療薬などの販売が軌道に乗った。

中外製薬が5位に…

住建

マンション

①野村不動産	6.6	(0.8)
②三井不動産レジデンシャル	5.5	(▲0.3)
③三菱地所レジデンス	5.3	(▲0.9)
3社合計	17.4	(▲0.4)
④住友不動産	4.5	(1.0)
⑤大和ハウス工業	3.4	(0.4)
マンション発売戸数	9万3861戸	(8.4)

出所：不動産経済研究所

戸建て住宅

①積水ハウス	3.7	(▲0.4)
②旭化成ホームズ	2.4	(0.1)
③積水化学工業	2.4	(▲0.1)
3社合計	8.5	(▲0.5)
④ミサワホーム	2.3	(　—)
⑤大和ハウス工業	2.2	(▲0.2)
※販売戸数	44万1068戸	(4.4)

出所：全体は国土交通省、シェアは日経推定

木造住宅用アルミサッシ・ドア

①ＬＩＸＩＬグループ	48.7	(0.1)
②ＹＫＫＡＰ	32.2	(0.6)
③三協立山	18.7	(▲0.7)
3社合計	99.6	(0.0)
国内出荷量	15万5096トン	(▲0.9)

出所：経済産業省。シェアは日経推定

医薬

医療用医薬品

①武田薬品工業	7.4	(▲0.2)
②アステラス製薬	6.7	(▲0.3)
③第一三共	5.5	(0.2)
3社合計	19.6	(▲0.3)
④田辺三菱製薬	4.2	(▲0.2)
⑤中外製薬	4.1	(0.0)
※売上金額	9兆5601億円	(0.3)

出所：ＩＭＳジャパン

後発医薬品

①沢井製薬	8.1	(0.6)
②日医工	7.6	(0.9)
③テバ製薬	6.5	(0.5)
3社合計	22.2	(2.0)
④東和薬品	5.6	(0.2)
⑤ニプロファーマ	4.7	(0.0)
※販売額（薬価ベース）	9896億円	(10.0)

出所：全体は日本ジェネリック製薬協会、シェアは日経推定

ドリンク剤・ミニドリンク剤

①大正製薬	38.5	(▲0.3)
②佐藤製薬	10.5	(0.2)
③大鵬薬品工業	8.5	(▲0.3)
3社合計	57.5	(▲0.4)
④武田薬品工業	7.3	(0.6)
⑤エーザイ	3.4	(0.1)
※国内販売額	1940億円	(▲3.8)

出所：日経推定

総合感冒薬

①大正製薬	28.3	(0.3)
②第一三共ヘルスケア	18.7	(▲0.2)
③武田薬品工業	12.0	(0.0)
3社合計	59.0	(0.1)
④全薬工業	5.8	(0.0)
⑤エスエス製薬	5.7	(0.0)
※国内販売額	983億円	(▲5.3)

出所：日経推定

育毛剤・発毛剤

①大正製薬	53.2	(▲0.6)
②花王	16.5	(▲0.2)
③第一三共ヘルスケア	6.0	(0.0)
3社合計	75.7	(▲0.8)
④資生堂	5.7	(▲0.3)
⑤加美乃素本舗	3.9	(0.2)
※小売ベース販売額	351億円	(▲2.8)

出所：日経推定

生活・食品

ビール系飲料

①アサヒビール	37.5	(▲0.4)
②キリンビール	35.6	(▲0.6)
③サントリー酒類	14.2	(0.8)
3社合計	87.3	(▲0.1)
④サッポロビール	11.8	(0.2)
⑤オリオンビール	0.9	(0.0)
国内出荷量	4億3811万ケース	(▲1.0)

出所：ビール大手5社

第三のビール

①キリンビール	36.4	(▲0.6)
②サントリー酒類	25.0	(1.6)
③アサヒビール	24.0	(▲1.7)
3社合計	85.4	(▲0.7)
④サッポロビール	13.7	(0.8)
⑤オリオンビール	0.9	(0.0)
国内出荷量	1億5501万ケース	(1.1)

出所：ビール大手5社

ウイスキー

①サントリー酒類	58.2	(2.8)
②アサヒビール	21.8	(▲1.9)
③キリンビール	6.6	(▲1.9)
3社合計	86.6	(▲1.2)
国内出荷量	9万8574キロリットル	(2.6)

出所：国内販売量（課税・通関ベース）

清涼飲料

①コカ・コーラグループ	28.1	(▲0.3)
②サントリー食品インターナショナル	21.8	(▲0.1)
③伊藤園	11.8	(0.6)
3社合計	61.7	(0.2)
④アサヒ飲料	10.7	(0.8)
⑤キリンビバレッジ	10.3	(0.6)
国内販売量	17億9980万ケース	(3.2)

出所：日経推定

ミネラルウオーター

①サントリー食品インターナショナル	25.6	(0.5)
②コカ・コーラグループ	19.7	(1.6)
③キリンビバレッジ	12.1	(▲0.6)
3社合計	57.4	(1.5)
④アサヒ飲料	8.9	(1.5)
⑤伊藤園	2.3	(0.4)
国内生産量＋輸入量	314万1114キロリットル	(▲1.0)

出所：全体は日本ミネラルウォーター協会、シェアは日経推定

冷凍食品

①ニチレイ	21.1	(0.2)
②マルハニチロホールディングス	17.2	(3.3)
③テーブルマーク	13.5	(0.4)
3社合計	51.8	(3.9)
④味の素冷凍食品	11.7	(▲0.1)
⑤日本水産	8.9	(▲0.4)
国内生産と冷凍野菜輸入・調理冷凍食品輸入の合計	8951億円	(4.2)

出所：全体は日本冷凍食品協会、シェアは日経推定

即席めん

①日清食品	39.3	(▲0.3)
②東洋水産	24.3	(3.0)
③サンヨー食品	15.2	(0.7)
3社合計	78.8	(3.4)
④明星食品	8.0	(▲0.3)
⑤エースコック	7.9	(0.2)
国内生産量	54億7558万食	(▲1.0)

出所：全体は日本即席食品工業協会、シェアは日経推定

ハム・ソーセージ

①日本ハム	21.0	(▲0.2)
②伊藤ハム	18.9	(▲0.9)
③丸大食品	16.9	(▲0.2)
3社合計	56.8	(▲1.3)
④プリマハム	10.9	(0.4)
⑤米久	8.0	(0.0)
※国内生産量＋輸入量	58万3383トン	(3.2)

出所：日本ハム・ソーセージ工業協同組合、シェアは日経推定

アイスクリーム

①ロッテ	17.5	(0.2)
②森永乳業	12.2	(▲0.3)
③江崎グリコ	11.6	(▲0.7)
3社合計	41.3	(▲0.8)
④明治	10.9	(0.1)
⑤ハーゲンダッツジャパン	9.2	(0.5)
※国内販売額（出荷ベース）	4181億円	(3.0)

出所：全体は日本アイスクリーム協会、シェアは日経推定

台所用洗剤

①花王	34.1	(▲2.6)
②Ｐ＆Ｇジャパン	28.2	(▲1.8)
③ライオン	23.6	(▲1.3)
3社合計	85.9	(▲5.7)
④旭化成ホームプロダクツ	4.2	(　—)
国内出荷額	503億円	(▲1.9)

出所：全体は日本石鹸洗剤工業会、シェアは日経推定

衣料用合成洗剤

①花王	38.8	(▲2.3)
②Ｐ＆Ｇジャパン	30.4	(▲1.4)
③ライオン	25.0	(▲1.4)
3社合計	94.2	(▲5.0)
国内出荷額	1877億円	(▲1.2)

出所：全体は日本石鹸洗剤工業会、シェアは日経推定

シャンプー・リンス

①花王	23.8	(▲0.4)
②Ｐ＆Ｇジャパン	20.0	(0.1)
③ユニリーバ・ジャパン	16.3	(0.0)
3社合計	60.1	(▲0.3)
④資生堂	16.2	(▲0.3)
国内出荷額	2085億5200万円	(▲6.3)

出所：全体は経済産業省、シェアは日経推定

化粧品

①資生堂	20.9	(▲2.3)
②カネボウ化粧品	16.7	(0.0)
③コーセー	10.1	(0.2)
3社合計	47.7	(▲2.1)
④ポーラ・オルビスホールディングス	10.0	(1.4)
⑤花王	6.5	(0.1)
国内出荷額	1兆1962億円	(1.1)

出所：全体は経済産業省、シェアは日経推定

歯磨き

①ライオン	29.2	(▲1.1)
②花王	20.3	(▲0.9)
③サンスター	16.9	(▲1.9)
3社合計	66.4	(▲3.9)
④アース製薬	10.4	(▲0.2)
⑤小林製薬	5.3	(0.0)
国内出荷実績	1056億円	(6.4)

出所：全体は日本歯磨工業会、シェアは日経推定

婦人服

①ワールド	3.7	(0.1)
②オンワードホールディングス	3.7	(0.3)
③ＴＳＩホールディングス	2.4	(0.3)
3社合計	9.8	(0.7)
④イトキン	1.7	(0.0)
⑤クロスプラス	1.4	(0.0)
※国内販売額	5兆6700億円	(1.7)

出所：日経推定

婦人下着

①ワコールホールディングス	34.0	(0.0)
②トリンプ・インターナショナル・ジャパン	13.0	(0.1)
③グンゼ	3.5	(▲0.2)
3社合計	50.5	(▲0.1)
④シャルレ	3.2	(▲0.2)
⑤セシール	3.1	(▲0.1)
※国内販売額	3629億円	(▲0.3)

出所：日経推定

紳士服

①オンワードＨＤ　[illegible]

即

【台…】…の高い…スーパ…流通大…ベート…自主企…模を押…洗機普…商品も…

台所用洗剤

⑤加美乃素本舗　3.9（　0.2）
※小売ベース販売額　351億円（▲2.8）
出所：日経推定

⑤来久　8.0（　0.0）
※国内生産量＋輸入量　58万3383トン（　3.2）
出所：日本ハム・ソーセージ工業協同組合、シェアは日経推定

④シャルレ　3.2（▲0.2）
⑤セシール　3.1（▲0.1）
※国内販売額　3629億円（▲0.3）
出所：日経推定

紳士服

①オンワードHD　2.9（　0.1）
②三陽商会　1.8（　0.1）
③レナウン　1.6（　0.0）
3社合計　6.3（　0.2）
④ワールド　1.5（　0.1）
⑤ファイブフォックス　1.1（　0.0）
※国内販売額　2兆4763億円（　1.6）
出所：日経推定

台所用洗剤
旭化成、市場参入 販売好調で4位

【台所用洗剤】汎用性の高い台所用洗剤は総合スーパーやコンビニなど流通大手の安価なプライベートブランド（PB＝自主企画）商品が市場規模を押し下げている。食洗機普及が一巡し高単価商品も伸び悩む。旭化成ホームプロダクツが独ブランド「フロッシュ」とライセンス契約して市場参入し4位に入った。大手商品の5割程度高い単価を維持しながら好調な販売を続ける。

【衣料用合成洗剤】総合スーパーなど流通大手の安価なプライベートブランド（PB＝自主企画）商品が急激に増え、ほぼ寡占状態だった大手3社のシェアを侵食している。汎用品である合成洗剤は店頭での値引きが常態化しているなかで、首位の花王は「アタックNeo抗菌EXパワー」など高機能商品の販売に力を入れた。

【シャンプー・リンス】「ノンシリコン」や「自然派」をうたう商品をひっさげた新規参入が相次ぎ、大手のシェアを奪う構図になっている。目立った新商品がなかった国内勢がシェアを落とし、高機能商品を投入した外資勢が健闘した。前年の4位から3位に浮上したユニリーバ・ジャパンは実勢価格が1000円以上の「ラックス」など高価格帯が売れた。

【化粧品】ドラッグストアやネット通販を主要販路とする低価格品の需要が引き続き底堅い。3位のコーセーは苦戦が続いていた中価格帯の化粧品が盛り返しシェアをわずかに伸ばした。4位のポーラ・オルビスホールディングスは海外化粧品ブランドの買収効果で1・4ポイント拡大し、3位のコーセーに肉薄した。

【歯磨き】ライオンと花王の上位2社が歯周病や知覚過敏の予防に効果のある1本500円を超える高機能歯磨きの販促に注力。単価の上昇が市場規模を拡大させた。順位に変動はなかった。流通大手のPB商品がじわり拡大しており、メーカー品のシェアを侵食し始めている。

【婦人服】夏のバーゲン時期が分散して盛り上がりに欠けたが、冬の冷え込みでコートなどの重衣料が好調だった。2位のオンワードホールディングスがシェアを0・3ポイント伸ばし、首位のワールドに実質的に並んだ。主力ブランド「23区」が好調で、「組曲」なども堅調に推移した。

【婦人下着】国内市場は0・3%縮小した。ユニクロなどの低価格衣料品店や、スーパーのPBとの競争が引き続き激しく、単価は下落傾向にある。首位のワコールホールディングスと2位のトリンプ・インターナショナル・ジャパンはともにほぼ横ばいだった。

【紳士服】消費は復調傾向だが、夏のクールビズ商戦が前年よりも伸び悩み微増にとどまった。2年連続で首位となったオンワードホールディングスは「ジョゼフ」など高価格帯の商品が好調だった。2位の三陽商会は春物衣料が好調で、シェアをわずかに伸ばした。

即席めん
東洋水産伸びる

店頭に並ぶ東洋水産の「マルちゃん正麺」

1食品も類似の商品を相次ぎ発売した。カップ麺とは対照的に縮小傾向だった袋麺がにわかに活気づき、安売り販売にも歯止めがかかった。

【ハム・ソーセージ】中堅メーカーや商社による輸入が増え、上位5社の顔ぶれは変わらなかった。唯一シェアを伸ばしたのが4位のプリマハムで、商品企画数を絞り、効率的な販促で数量を伸ばした。首位の日本ハムなどはカテゴリーに入らない焼き豚などが好調だった。2位の伊藤ハムは採算重視もあり数量は減った。

【アイスクリーム】国内販売額（出荷ベース）が4000億円を突破したのは猛暑だった2010年と、東日本大震災後に節電機運が高まった11年に続いて3年連続。順位に変動はなく、ロッテが5年連続で首位に立った。2位の森永乳業と3位の江崎グリコはそれぞれわずかながらシェアを落とした。

医薬品
中外製薬が5位に

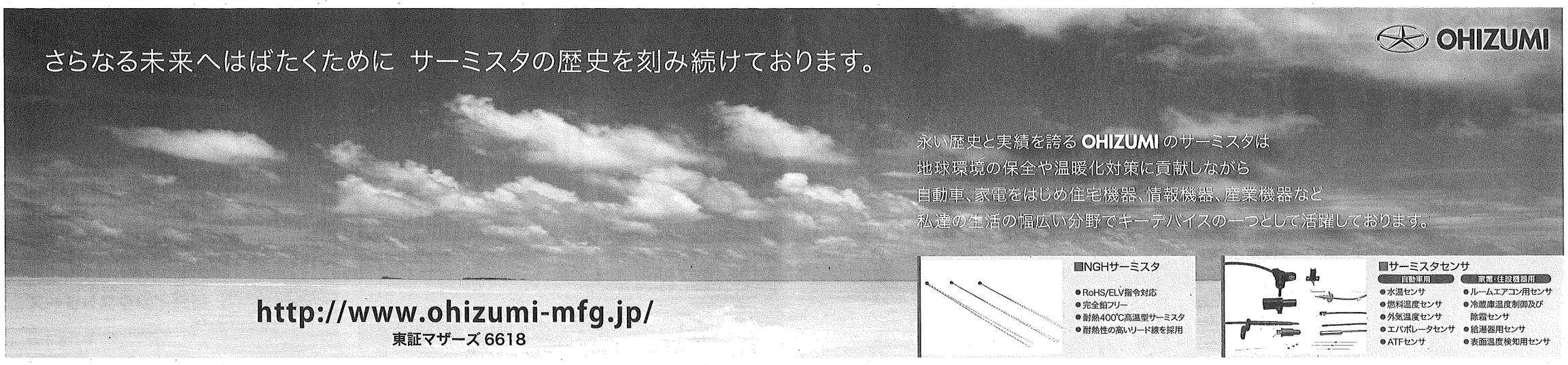
【後発医薬品】政府の使用促進策を背景に伸びた。数量ベースでは16%増と薬価引き下げの影響を吸収した。上位5社の順位に変動はなかった。大手各社は医薬情報担当者（MR）を増やしシェアを拡大。首位の沢井製薬は発売前からの営業前倒しなどが奏功した。3位には2012年4月に大洋薬品工業と興和テバが合併して発足したテバ製薬が入った。

【ドリンク剤・ミニドリンク剤】国内販売額（小売りベース）は3・8%減少した。個人消費の落ち込みに加え、機能性飲料など他の飲料との競合が激しくなっている。前年シェアを伸ばした3位の大鵬薬品工業は反動で若干減少。4位の武田薬品工業や5位のエーザイは女性向けに力を入れ好調だった。

【総合感冒薬】一般用医薬品は各社とも有力な新製品がなく国内市場（小売りベース）は5・3%減少した。「パブロンS」など主力ブランドを持つ首位の大正製薬がシェアを伸ばした。「ベンザブロック」の武田薬品工業や「ジキニン」の全薬工業、「エスタック」のエスエス製薬などは横ばいだった。

【育毛剤・発毛剤】首位の大正製薬は発毛剤のブランド「リアップ」の販売が落ち込んだ。有効成分が5倍の「リアップX5」も発売から4年が経過し、消費拡大が一段落したものとみられる。5位の加美乃素本舗は新製品「薬用 美髪源」の投入などが寄与し、わずかだがシェアを伸ばした。

ドリンク剤・ミニドリンク剤
▶女性向け販売好調

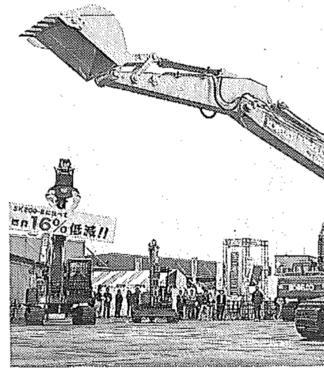


コベルコ、コマツを猛追

国内シェア100品目（1面参照）

表中の網掛け品目が首位交代

油圧ショベル



コベルコ建機のハイブリッド油圧ショベル「SK200H」

【油圧ショベル】東日本大震災の復興需要などにより、国内出荷台数は40・7%の大幅増。上位5社とも前年より台数を増やした。首位のコマツが約600台増だったのに対し、コベルコ建機は約2300台増、日立建機は約1800台増やし、相対的にコマツのシェアが下がった。コベルコ建機は広島市の五日市工場が2012年5月から本格稼働して需要増に対応し、前年の3位から2位に順位を上げた。

船舶　今治造船、2年ぶり首位

【フォークリフト】東日本大震災の復興需要で国内販売台数は約1割増えた。首位の豊田自動織機は製造業への拡販のほか、建設業、農林水産業などの需要増も取り込み、2位以下を大きく引き離した。

【船舶】リーマン・ショック以前に大量受注した船舶の建造量が減ったことで新造船の受注が低下した。竣工量が減った中で小型船やばら積み船の量産に強い専業メーカーが上位を独占。2年ぶりに首位となった今治造船は主力のばら積み船の建造を増やした。前年3位の三菱重工業は神戸造船所で商船建造から撤退した影響で上位5社から外れた。

【産業用ロボット】安川電機が首位を守りシェアを1・4ポイント伸ばした。自動車関連の需要を取り込み、食料品や医薬品向けも拡大した。電子部品実装機が中心のパナソニックをかわし、川崎重工業が2位に浮上した。一般産業向けの需要を確保した。

【プラスチック射出成型機】タイ洪水の復興需要が続き、国内生産台数は微増となった。前年まで3年連続首位だったファナックが国内外とも低調で2位に後退。タイの復興需要を取り込んでシェアを0・5ポイント伸ばした住友重機械工業が4年ぶりに首位に立った。

【NC（数値制御）旋盤】国内生産額で、上位3社は北米の航空機やエネルギー産業向けなどを取り込んでシェアを伸ばした。4位に浮上したツガミは中国でのIT関連向けなどが好調だった。

【マシニングセンター】国内生産額はファナックが首位を堅持。年前半はスマートフォン部品の加工などに使う小型機の需要が中国を中心に旺盛で、受注を伸ばした。秋口からの落ち込みを補った。堅調な北米の自動車や航空機向けの需要を得た企業がシェアを伸ばした。昨年4位の牧野フライス製作所は年後半からの中国の需要減の影響で5位に後退した。

【超硬工具】中国の景気減速や反日運動、エコカー補助金終了などの影響で、主要顧客である自動車メーカーの生産活動が停滞し、市場は縮小した。1位を争う住友電気工業と三菱マテリアルのシェアは変わらなかった。新製品を多く投入したタンガロイがシェアを若干伸ばした。

【腕時計】出荷量は1割以上増えた。年前半は円高で観光客向けの販売が落ち込んだが、後半は「アベノミクス効果」で高価格帯の販売が増えた。3位のセイコーホールディングスは全地球測位システム（GPS）を利用して時刻を修正する

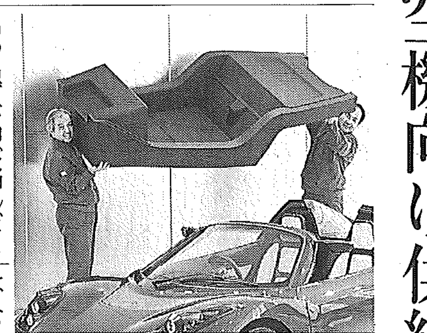
「セイ
や、高
ドセイ
調だっ

東レ、航空機向け供給

炭素繊維

【炭素繊維】国内市場は15%減となった。一般産業用やスポーツ・レジャー用品を中心に安価な汎用品が流入。一部の製品で価格が下がり、全体の出荷額が落ち込んだ。首位の東レはシェアを0・3ポイント増やした。航空機向けの供給拡大が寄与した。2位の三菱レイヨン、3位の帝人はともにシェアを落とした。欧州経済の低迷で風力発電向け製品の出荷が伸び悩んだことも影響した。

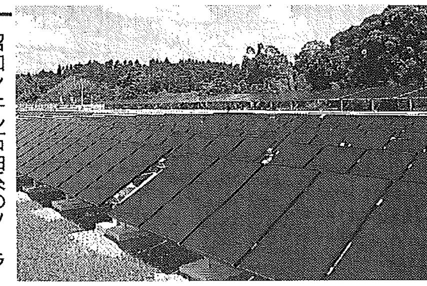
【粗鋼】国内生産量は2年ぶりに増加。東日本大震災による混乱の反動などで鉄鋼需要が押し上げられたほか、年度前半



はエコ
切れを
生産増
0・8
ったの
競合や
重くの
建材で
激しか

太陽電池

【太陽電池】2012年7月に始まった再生可能エネルギーの全量買い取り制度を機に市場が拡大し、国内総出荷量は約90%も増えた。外国メーカーの攻勢などで激しいシェアの奪い合いになり、上位のシェアは軒並み下がった。4位にはメガソーラー向けの出荷を伸ばした昭和シェル石油系のソーラーフロンティア（東京・港）が入った。前年5位の中国のサンテックパワーは順位を下げた。同社は13年春に事実上経営破綻した。


昭和シェル石油系のソーラーフロンティアが運営する太陽光発電所（宮崎市）

昭和シェル系、出荷増◀

風力発電機

▶2位に独エネルコン

【風力発電機】首位には新たに風車メーカーとなった日立製作所が立った。2012年7月に富士重工業から事業を譲り受けて一気にシェアを伸ばした。11年度の富士重のシェアと比べても35・6ポイント増やした。ウィンド・パワー（茨城県神栖市）が建てた洋上風力発電所や関西電力の淡路風力発電所（兵庫県淡路市）に納入した。2位はドイツのエネルコン。手厚いメンテナンス体制を売りに中小事業者を中心に販売を伸ばした。

【風力発電量】2012年度末に設置済みの設備は前年度末比で3・6%増だった。発電所建設に際しての事業者に対する補助金が打ち切られた影響で新規開発は低調で、上位の顔ぶれに変化はなかった。3位の日本風力開発と5位のクリーンエナジーファクトリーは風力発電所の一部売却でシェアを落としており、上位の中で優勝劣敗が鮮明になりつつある。

エチレン

【エ
量は内
1%減
2年ぶ
た。東
県のプ
した反
し、前
学を逆
丸善

機械・環境

油圧ショベル

①コマツ	23.1（▲6.4）
②コベルコ建機	21.4（3.3）
③日立建機	20.4（0.9）
3社合計	64.9（▲2.2）
④キャタピラージャパン	18.9（1.1）
⑤住友建機	9.6（1.9）
国内出荷台数	2万7056台（40.7）

出所：全体は日本建設機械工業会、シェアは日経推定

フォークリフト

①豊田自動織機	44.4（1.7）
②ニチユ三菱フォークリフト	18.4（▲2.1）
③ユニキャリア	16.1（0.3）
3社合計	78.9（0.0）
④コマツ	13.8（▲1.9）
⑤住友ナコマテリアルハンドリング	5.4（0.1）
国内販売台数	6万9176台（11.1）

出所：全体は日本産業車両協会、シェアは日経推定

船舶

①今治造船	15.6（3.3）
②ユニバーサル造船（現ジャパンマリンユナイテッド）	13.7（0.4）
③大島造船所	9.3（1.2）
3社合計	38.6（4.0）
④幸陽船渠	8.6（0.2）
⑤名村造船所	7.0（1.6）
国内竣工量	1463万5386総トン（▲11.1）

出所：全体は日本造船工業会、シェアは日経推定

産業用ロボット

①安川電機	21.6（1.4）
②川崎重工業	9.0（▲0.5）
③パナソニック	8.8（▲1.6）
3社合計	39.4（▲0.7）
④ファナック	8.0（▲0.2）
⑤不二越	6.2（0.2）
国内出荷額	1782億6200万円（6.1）

出所：全体は日本ロボット工業会、シェアは日経推定

プラスチック射出成型機

①住友重機械工業	21.7（0.5）
②ファナック	20.4（▲3.2）
③日精樹脂工業	18.3（1.9）
3社合計	60.4（▲0.8）
④日本製鋼所	12.3（▲0.3）
⑤東芝機械	8.9（1.2）
国内生産台数	1万2221台（2.3）

出所：全体は日本産業機械工業会、シェアは日経推定

NC旋盤

①ヤマザキマザック	28.2（1.6）
②森精機製作所	24.2（2.6）
③オークマ	23.4（5.2）
3社合計	75.8（9.4）
④ツガミ	11.4（4.7）
⑤シチズンマシナリーミヤノ	6.3（▲2.4）
国内生産額	2319億7100万円（▲5.4）

出所：全体は経済産業省、シェアは日経推定

マシニングセンター

①ファナック	30.8（8.0）
②森精機製作所	19.1（1.2）
③ヤマザキマザック	17.7（0.4）
3社合計	67.6（9.6）
④オークマ	12.8（1.2）
⑤牧野フライス製作所	12.8（▲0.4）
国内生産額	4654億1500万円（13.1）

出所：全体は経済産業省、シェアは日経推定

超硬工具

①住友電気工業	16.3（0.0）
②三菱マテリアル	15.3（0.0）
③タンガロイ	11.6（0.8）
3社合計	43.2（0.8）
④京セラ	10.9（0.3）
⑤ＯＳＧ	6.3（0.8）
※国内出荷額	1919億円（▲7.7）

出所：全体は超硬工具協会、シェアは日経推定

腕時計

素材・エネルギー

炭素繊維

①東レ	75.5（0.3）
②三菱レイヨン	13.9（▲0.2）
③帝人	10.6（▲0.1）
3社合計	100.0（0.0）
出荷額	605億円（▲15.0）

出所：日経推定

粗鋼

①新日鉄住金	42.9（0.5）
②ＪＦＥスチール	28.6（1.1）
③神戸製鋼所	6.5（▲0.2）
3社合計	78.0（8.3）
④日新製鋼ホールディングス	3.7（▲0.1）
⑤東京製鉄	2.3（▲0.3）
※生産量	1億730万トン（0.8）

出所：全体は日本鉄鋼連盟、シェアは日経推定

ステンレス鋼

①新日鉄住金ステンレス	31.0（2.9）
②日新製鋼ホールディングス	25.7（▲1.6）
③ＪＦＥスチール	17.9（▲0.2）
3社合計	74.6（2.2）
④日本冶金工業	9.9（▲0.1）
国内生産量	281万9105トン（▲3.8）

出所：日経推定

H形鋼

①新日鉄住金	37.9（0.3）
②東京製鉄	24.2（1.0）
③ＪＦＥスチール	14.8（▲0.6）
3社合計	76.9（0.7）
④ヤマトスチール	11.8（▲1.7）
⑤トピー工業	7.2（1.1）
国内生産量	354万6640トン（5.4）

出所：日経推定

アルミ圧延品

①古河スカイ	20.3（▲0.2）
②住友軽金属工業	18.1（0.2）
③神戸製鋼所	13.7（▲0.3）
3社合計	52.1（▲0.3）
④三菱アルミニウム	7.3（0.2）
⑤日本軽金属	3.7（▲0.1）
国内生産量	197万9063トン（▲0.5）

出所：全体は日本アルミニウム協会、シェアは日経推定

ホットコイル

①新日鉄住金	50.2（▲0.1）
②ＪＦＥスチール	35.6（1.0）
③日新製鋼ホールディングス	6.7（▲0.2）
3社合計	92.5（7.6）
④神戸製鋼所	4.7（▲0.6）
生産量	4181万8082トン（3.2）

出所：日経推定

エチレン

①三菱化学	18.4（3.8）
②三井化学	15.8（▲0.8）
③丸善石油化学	11.7（0.0）
3社合計	45.9（2.3）
④出光興産	11.4（▲1.1）
⑤昭和電工	7.5（▲2.2）
国内生産量	614万6200トン（▲8.1）

出所：全体は石油化学工業協会、シェアは日経推定

低密度ポリエチレン

①日本ポリエチレン	33.1（2.3）
②住友化学	18.1（▲0.1）
③プライムポリマー	16.2（▲1.2）
3社合計	67.4（0.9）
④宇部丸善ポリエチレン	8.3（▲0.2）
⑤東ソー	7.9（0.1）
国内出荷量	128万3800トン（▲4.1）

出所：全体は石油化学工業協会、シェアは日経推定

ABS樹脂

板ガラス

①旭硝子	42.0（0.5）
②日本板硝子	27.0（0.5）
③セントラル硝子	17.6（0.2）
3社合計	86.6（1.2）
国内出荷量＋輸入量	3億1500万平方メートル（▲1.5）

出所：日経推定

印刷・情報用紙

①日本製紙	28.8（4.1）
②王子製紙	19.0（▲2.3）
③北越紀州製紙	15.4（▲0.9）
3社合計	63.2（0.9）
④大王製紙	13.0（0.2）
⑤三菱製紙	8.6（3.8）
国内生産量	842万214トン（▲4.0）

出所：日本製紙連合会

衛生用紙

①大王製紙	14.6（▲0.5）
②日本製紙クレシア	12.9（0.2）
③王子ネピア・王子製紙	10.5（0.0）
3社合計	38.0（▲0.3）
④特種東海製紙	1.3（▲0.1）
⑤北上ハイテクペーパー	0.4（0.0）
出荷量	176万6180トン（▲0.8）

出所：日本製紙連合会

ーコーホー
は全地球測
PS）を
を修正する

「セイコーアストロン」や、高級腕時計「グランドセイコー」の販売が好調だった。

（向）け供給拡大

炭素繊維複合材料を用いた東レのコンセプトカー「TEEWAVE」

悩んだこ
内生産量は
減。東日本
混乱の反動
要が押し上
年度前半

はエコカー補助金の期限切れを前にした自動車の生産増が追い風だった。0・8%の微増にとどまったのは、輸入鋼材との競合や造船向けの低迷が重くのしかかったため。建材で輸入材との競合の激しかった電炉の東京製鉄などが苦戦した。

【ステンレス鋼】国内市場は3・8%減。輸入鋼材との競合や家電・建機向けの不振が理由。1位の新日鉄住金ステンレスは業績悪化に苦しみながらも特殊ステンレスの拡販などでシェアを伸ばした。2012年10月に誕生した2位の日新製鋼ホールディングスのシェアが25%台になり、首位に迫った。

【H形鋼】国内生産量は5・4%増だった。都市部を中心とした再開発などが追い風となった。合併で旧住金スチールのシェアを取り込んだ新日鉄住金が2位以下を大きく引き離して首位。東京製鉄が2位だった。

【アルミ圧延品】国内生産量は0・5%減だった。電機業界向けの需要が低迷した。上位の順位に変動はなかったが、首位の古河スカイは半導体製造装置向けの厚板などが不振だった。自動車向け需要が底支えした2位の住友軽金属工業は若干シェアを増やした。

【ホットコイル】国内生産量（熱延帯鋼のうち冷延電気鋼帯向けを除く）は3・2%増だった。合併した新日鉄住金は50%のシェアを握った。同社とJFEスチールは海外の鋼板加工拠点などに国内からホットコイルを輸出し、現地の自動車工場などに納める事業モデルを推進。

4位の神戸製鋼所は高張力鋼板（ハイテン）などの強みを持つが、国内製鉄所の高コスト構造が重荷となりシェアを落とした。

（神栖市）
発電所
風力発
市）に
ドイツ
厚いメ
売りに
に販売
201
みの設
3・6
所建設
に対す
られた
は低調
に変化
の日本
クリー
トリー
部売却
してお
勝劣敗
ある。

エチレン
5位昭和電工トラブル響く

【エチレン】国内生産量は内需低迷などで8・1%減った。三菱化学が2年ぶりに首位に復帰した。東日本大震災で茨城県のプラントを一時停止した反動で生産量が増加し、前年トップの三井化学を逆転した。丸善石油化学は生産の大幅減を防ぎ、3位に浮上した。昭和電工はプラントのトラブルが響いた。

【低密度ポリエチレン】国内出荷量は4・1%減った。年前半の円高を受けた海外品の流入などが響いた。三菱化学グループの日本ポリエチレンは東日本大震災による供給減から回復傾向にあり首位を堅持した。

【ABS樹脂】国内出荷量は2・1%減だった。車両用と電気器具向けが低迷。中国や韓国などの新興メーカーの割安な汎用品が流入し、輸入品が約3割増えた。国内メーカーは5～15%の値上げを実施したが、首位のUMG・ABSや3位の東レがシェアを減らすなど、価格競争から出荷量を落とした。

【合成ゴム】国内出荷量は6・4%減だった。中国の新興メーカーが設備の新増設を進めた影響で安い合成ゴムが流入し、国内メーカーのシェアが落ちた。3位の旭化成は低燃費タイヤに使うS-SBR（溶液重合ブタジエンゴム）が好調で、2位に急迫した。

【ガソリン】低燃費車の普及などで販売量は1・3%減った。首位のJX日鉱日石エネルギーは合理化で給油所数を減らし販売量も微減だったが、他社が製油所事故の影響などで販売を大きく減らしたため相対的にシェアが増えた。2位の東燃ゼネラルはセルフ化や系列外への販売を増やしてシェアを伸ばした。

【セメント】国内需要は2年連続で前年実績を上回った。東日本大震災の復興需要のほか、マンション建設などが堅調だった。各社が値上げによる収益改善に取り組む中で、首位の太平洋セメントは値上げ幅を抑制し、シェアを伸ばした。

【板ガラス】1～3位で順位の変動はなかった。中国からの輸入品が減り、3社ともシェアは微増だった。首位の旭硝子は建築、自動車向けともに出荷量を増やし、2位の日本板硝子は自動車向けが年後半から好調だった。

【印刷・情報用紙】国内生産量は4%減少した。年前半の円高で輸入紙が大量に流入した。トップの日本製紙はシェアを4・1ﾎﾟｲﾝﾄ伸ばした。東日本大震災で被災した石巻工場（宮城県石巻市）の全生産ラインが復旧したため。前年6位だった三菱製紙も被災した八戸工場（青森県八戸市）が完全復旧し、5位に返り咲いた。

【衛生用紙】国内出荷量は0・8%減。首位の大王製紙はシェアを落とした。価格下落が続く中、一部製品で価格を据え置いたことが響いた。2位の日本製紙クレシアは工場の稼働率向上などでシェアを伸ばした。

④京セラ	10.9(0.3)
⑤OSG	6.3(0.8)
※国内出荷額	1919億円(▲7.7)

出所：全体は超硬工具協会、シェアは日経推定

腕時計

①カシオ計算機	37.1(▲1.7)
②シチズン時計	35.1(0.2)
③セイコーホールディングス	26.5(3.4)
3社合計	98.7(1.9)
④オリエント時計	1.9(▲0.1)
⑤リコーエレメックス	1.1(▲0.1)
国内出荷量	716万個(11.8)

出所：全体は日本時計協会、シェアは日経推定

太陽電池

①シャープ	26.1(▲6.1)
②京セラ	21.3(▲4.7)
③パナソニック	19.9(▲3.2)
3社合計	67.3(▲14.0)
④ソーラーフロンティア	11.8(2.5)
⑤三菱電機	9.9(0.1)
出荷量	246万ｷﾛﾜｯﾄ(90.3)

出所：全体は太陽光発電協会、シェアは日経推定

風力発電機

①日立製作所	54.3(54.3)
②エネルコン（独）	36.9(10.7)
③三菱重工業	2.9(2.9)
3社合計	94.1(▲3.5)
④日本製鋼所	2.2(▲50.5)
※2012年度新設分	9万2000ｷﾛﾜｯﾄ(8.2)

出所：全体は日本風力発電協会、シェアは日経推定

風力発電量

①ユーラスエナジーホールディングス	21.0(0.0)
②Jパワー	13.3(▲0.5)
③日本風力開発	7.1(▲3.8)
3社合計	41.4(▲4.3)
④エコ・パワー	5.5(▲0.3)
⑤クリーンエナジーファクトリー	3.2(▲0.5)
※設置済設備の発電能力	264万9000ｷﾛﾜｯﾄ(3.6)

出所：全体は日本風力発電協会、シェアは日経推定

④宇部丸善ポリエチレン	8.3(▲0.2)
⑤東ソー	7.9(0.1)
国内出荷量	128万3800ﾄﾝ(▲4.1)

出所：全体は石油化学工業協会、シェアは日経推定

ABS樹脂

①UMG・ABS	23.7(▲0.2)
②テクノポリマー	23.2(0.1)
③東レ	14.5(▲0.4)
3社合計	61.4(▲0.5)
④日本エイアンドエル	12.2(▲0.2)
⑤電気化学工業	10.6(0.0)
出荷量	30万9436ﾄﾝ(▲2.1)

出所：日経推定

合成ゴム

①JSR	26.0(▲0.7)
②日本ゼオン	16.9(▲0.3)
③旭化成	14.6(7.0)
3社合計	57.5(6.0)
④宇部興産	7.0(▲0.3)
⑤住友化学	5.1(▲0.6)
出荷量	100万6562ﾄﾝ(▲6.4)

出所：全体は日本ゴム工業会、シェアは日経推定

ガソリン

①JX日鉱日石エネルギー	33.7(0.2)
②東燃ゼネラル	18.2(0.8)
③昭和シェル石油	16.1(▲0.2)
3社合計	68.0(0.8)
④出光興産	15.2(▲0.1)
⑤コスモ石油	10.6(▲0.3)
※国内販売量	5644万ｷﾛﾘｯﾄﾙ(▲1.3)

出所：全体は資源エネルギー庁、シェアは日経推定

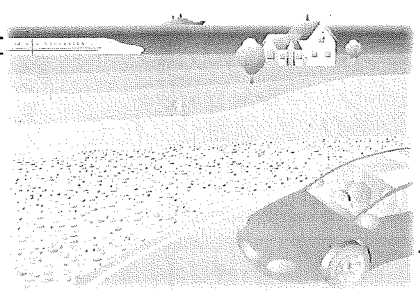
セメント

①太平洋セメント	34.7(0.6)
②宇部三菱セメント	23.6(▲0.4)
③住友大阪セメント	19.2(0.0)
3社合計	77.5(0.2)
④トクヤマ	7.5(▲0.2)
⑤麻生セメント	4.0(0.1)
国内販売量＋輸入量	4429万ﾄﾝ(5.3)

出所：全体はセメント協会、シェアは日経推定

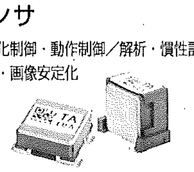
見えないところで先進技術を支えています
やわらかい風の声が聞こえる環境にやさしい開発・ものづくりで明日の風を見つめています

多摩川精機は、
高速交通網の整備が進む長野県飯田市を拠点に、
ハイブリッドカー用センサなど環境にやさしい技術を通じて、
自然環境と地域社会の調和に貢献する、
企業を目指しています。

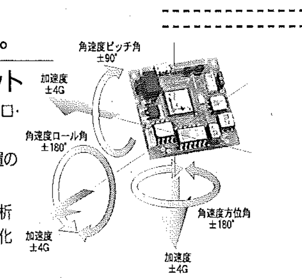


Motortronics® モータ(センサ)技術＋電子回路技術＋精密機械技術の総称です。
Gyrotronics® ジャイロ製品/技術の総称です。
Spacetronics® 航空宇宙製品/技術の総称です。
Biotronics® バイオ製品/技術の総称です。

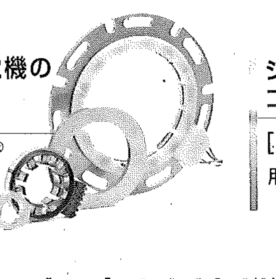
車の方向や傾きの情報(角速度)を検出します。
圧電角速度センサ
用途 ・誘導制御・安定化制御・動作制御／解析・慣性計測 ・ナビゲーション・画像安定化



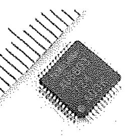
車体の傾きや動きを演算しコンピュータに伝達します。
小型3軸慣性センサユニット
この小型3軸慣性センサユニットは、3軸のジャイロ・加速度計を内蔵する慣性センサユニットです。姿勢角演算や外部情報との複合による速度・位置の算出も可能な慣性計測装置です。
用途 ・誘導制御・安定化制御・動作制御／解析 ・慣性計測・ナビゲーション・画像安定化 ・移動体制御



エコカーのモータや発電機の回転を監視します。
超薄形アブソリュート角度検出器
[シングルシン] Singlsyn®
用途 ・ハイブリッドカー用モータ ・ハイブリッドカー用発電機



シングルシンの信号をコンピュータ信号に変換します。
[スマートコーダ] SmartCoder®
用途 ・ハイブリッドカー用モータ ・ハイブリッドカー用発電機



Tamagawa 多摩川精機株式会社
■本　社／〒395-8515 長野県飯田市大休1879
■お問い合わせ先／〒395-0063 長野県飯田市羽場町1－3－1 TEL (0265) 56-5421 FAX (0265) 56-5426
http://www.tamagawa-seiki.co.jp